

# 職員の声

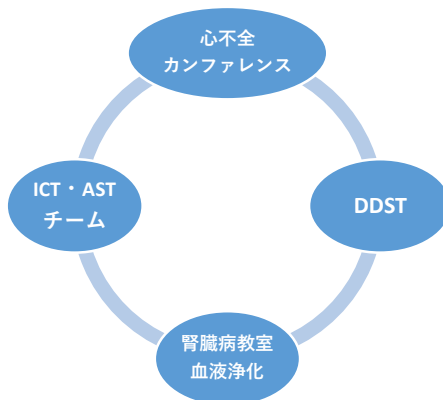
## 兵庫県立尼崎総合医療センター 薬剤部

兵庫県立尼崎総合医療センターは阪神地域の中核病院として、様々な分野で高度な専門医療を担っています。薬剤師は、調剤業務や薬剤管理指導業務（病棟業務）はもちろんのこと、様々なチーム医療に参加し患者さんへ最善の医療を提供できるよう努めています。

私は3年目の薬剤師ですが4つのチーム医療に参加しています。当院の薬剤部は若手のうちからチーム医療や病棟での活躍の機会があります！私が参加しているチームは以下の通りです。

週1回心不全症例及び付随する疾患等について多職種でカンファレンスを行う。

- ・ TDM対象薬剤の投与設計。
- ・ 抗菌薬適正使用カンファレンスの実施。
- 広域抗菌薬使用症例について感染症内科医師と検討を行う。
- ・ 院内の感染対策が正しく行われているか、院内を巡回するラウンドを実施。



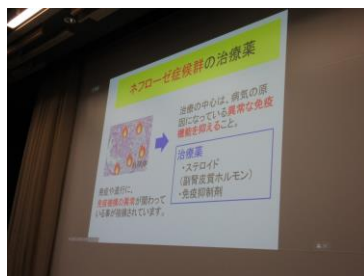
認知症・せん妄チームに介入依頼があった症例に対し多職種とともに週1回ラウンドを実施。

持続血液ろ過透析を施行しているICU患者に対し週1回多職種でラウンドを行う。

### 患者向け教室について

現在、新型コロナウイルスの影響で腎臓病教室や心臓病教室等、患者さん向けの教室は開催できていませんが、当院の難病センターから依頼があり、ネフローゼについてオンラインで教室を開催しました。

医師、薬剤師、管理栄養士がそれぞれの分野に特化した講義を行い、参加者からの質問にも答える場がありました。何ヶ月も前から話し合いを重ね準備してきた会だったので無事に終わることができ嬉しく思います。今後対面での教室が再開されることを心待ちにしています。



兵庫県立病院には6つの総合病院と4つの専門病院があり薬剤師として様々な経験を積むことができます。

みなさんも県職員の一員となり、私たちと一緒に働いてみませんか？



## 職員の声

### 兵庫県立はりま姫路総合医療センター 薬剤部



当院は、姫路地域の中核総合病院として2022年5月に開院しました。循環器・脳血管疾患や多発性外傷を中心とした救命救急医療を行うと共に、総合的な診療機能を生かし高度専門・急性期医療を提供しています。薬剤部には最新の機器や設備が整っており安全な薬物治療の提供に貢献しています。今回は、日々の業務で使用している薬剤部の機器及び設備と新任職員の業務についてご紹介します。

#### 自動薬剤ピッキング装置：ドラッグステーション (DS)

オーダーと連動し、薬剤が自動で取り出し口に届くため、取り間違いを防止することができます。さらに、カメラによる形状の確認や重量鑑査により数量チェックを行うことで計数間違いも防止できます。DSを使用することにより、簡易な操作で正確な調剤を行うことが可能になっています。



#### トレイライナー（搬送システム）



薬品等の院内の様々な物品を効率よく確実に搬送できるシステムです。薬剤部では主に注射薬、内服薬を病棟へ搬送する際に使用しており、オーダー情報を元にトレイに登録された目的地まで自動で搬送されるため、正確に薬剤を届けることができます。さらに、搬送状況や履歴を確認することも可能となっています。

#### 新任職員の業務について

私は、1年目の職員です。県立病院は、新人教育制度としてマンツーマン指導員制度を取り入れており年代の近い先輩がサポートしてくださり、相談しやすい環境です。入職当初は基本的な調剤業務について学び、7月から病棟業務も担当するようになりました。初めは、先輩から患者指導の方法や記録の記載方法などを教えて頂きました。また、病棟グループミーティングでは、先輩方の指導業務への取り組み方を学んでいます。そして、9月から当直業務を行い、10月からは院内の糖尿病チームの一員として活動しています。このように、1年目から様々な業務に携わることができ、薬剤師として多くの経験を得ることができています。

**兵庫県には、総合病院・専門病院があり、その中で様々な経験をして成長することができます。皆さんも県職員の一員となり、ぜひ私たちと一緒に働きましょう！**

## 職員の声

### 兵庫県立淡路医療センター 薬剤部

兵庫県立淡路医療センターは、淡路島で唯一の総合機能を有する公立病院で急性期医療・高度専門医療を提供しています。薬剤師は、AST、ICT、NST、緩和ケア、心不全、骨粗鬆症など様々なチーム医療に参加し、患者さんに安全で質の高い薬物治療が実施されるように努めています。今回は、当院の骨粗鬆症における取り組みについて紹介します。



#### 骨粗鬆症とは？

骨強度が低下し、骨折のリスクが増大しやすくなる疾患のことで、高齢化に伴い骨粗鬆症の患者は増加しています。一度脆弱性骨折を起こした患者さんの二次骨折リスクは極めて高いことがわかっており、継続した骨粗鬆症の薬物治療が重要となります。



#### 当院での取り組み

当院では年間 200 件以上の大腿骨近位部骨折手術を行っており、術後の薬物治療としてビスホスホネート製剤、活性型ビタミン D3 製剤が開始されます。薬剤師は、腎機能や血清カルシウム値などの検査値や併用薬を確認し治療が適切であるかを評価しています。ビスホスホネート製剤など骨粗鬆症治療薬には服用方法が複雑な薬剤があるため、患者の理解度を確認し看護師、医師などと連携しながら骨粗鬆症治療の継続ができるよう努めています。

#### 骨粗鬆症マネージャーとは？

骨粗鬆症に関する基本的知識と技能を有するメディカルスタッフとして日本骨粗鬆症学会によって認定される専門資格です。淡路島では骨粗鬆症マネージャーの会議を 2019 年に発足しています。現在は COVID - 19 の影響で開催できていませんが、周囲の医療機関と連携し、より一層充実した骨粗鬆症の予防や治療を提供できるよう、今後も取り組んでいきたいと思っています。



©兵庫県 2007

兵庫県立病院は総合病院と専門病院があり、  
薬剤師として様々な経験を積み成長することができます。  
みなさんもぜひ、私たちと一緒に県立病院で働いてみませんか？



# 職員の声

兵庫県立こども病院 薬剤部



当院薬剤部では調剤業務、病棟業務をはじめ、チーム医療や患者向け教室にも積極的に参加し、薬物治療に関わっています。

私は2年目の薬剤師です。ここでは、私が担当している血液腫瘍内科病棟の業務について紹介します。病棟ではレジメン管理、薬剤管理指導の他にも毎週行われるカンファレンスに参加し、今後の治療予定や新規患者情報を多職種と共有しています。



## ・レジメン管理業務

レジメンとは、がん薬物療法における抗がん剤、輸液、支持療法などを組み合わせた治療計画のことを言います。当院では、薬剤部が内容を精査し、電子カルテに登録する等のレジメンの管理を行っています。小児のがん薬物療法は成人と異なり治療方法が確立されていないことがあり、臨床試験に沿って行うことも多いです。また投与量は、年齢によって体表面積や体重換算など算出方法が異なります。複雑ながん薬物療法を管理するため、患者毎にスケジュールを作成し、医師と密に連携を取りながらレジメン管理を行っています。また、投与量、点滴ルートだけではなく、投与速度や年齢に応じた支持療法を確認し、適宜提案も行っています。

## ・薬剤管理指導業務

がん薬物療法を受ける患児やご家族に対して、薬の種類や投与スケジュールを含めた薬剤指導を行い、主な副作用やその予防策についても説明しています。副作用の早期発見、重篤化防止のためベットサイドでの聞き取りや情報収集等を行い、副作用が疑われた場合には、対処法や薬剤変更などの提案を行うなど、継続して介入しています。

また、長期間の内服継続が必要な薬剤や内服抗がん剤などの服用中断は、治療の成否に関わりますが、服薬を拒否する患児も少なくありません。内服方法やアドヒアランスも定期的に確認し、看護師、家族、患児とゼリーなど服薬補助剤を含めた内服方法の相談応需や、剤形や薬剤変更を医師と協議する場合があります。

現在、薬剤師の業務は多岐に渡ります。兵庫県には総合病院だけでなくこども病院のような専門病院もあり、薬剤師として専門性を発揮し成長できる環境が整っています。また様々な学会や研修に参加する機会があり、多くの人と交流し情報を共有することができます。みなさんも是非、私たちと一緒に県立病院で働いてみませんか？

# 職員の声

## 兵庫県立がんセンター 薬剤部

がんセンターは、都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、県内外のがん診療の中核病院として、薬物療法、放射線療法、外科治療などの最新の医療を提供しています。さらに、がん相談支援センターを設置し、治療の提供だけでなく、就学や就労についての支援も行っています。



当院の薬剤部では、処方箋に基づいた調剤・鑑査、抗がん剤や治療薬の調製、外来でがん化学療法を受ける患者さんへの外来指導業務、病棟業務やチーム医療など様々な業務を行っています。今回は当院の病棟業務について紹介します。

### ●病棟業務

私が現在担当している呼吸器内科病棟では、がん化学療法を受けている患者さんがほとんどです。そのため、投与量とレジメン内容は適切であるか、相互作用に問題はないかの確認は欠かせません。初回治療目的で入院された患者さんに対しては、アレルギー歴や持参薬の確認はもちろん、抗がん剤・支持薬の種類や投与スケジュール、副作用やその予防策、内服薬の場合は飲み忘れ時の対応などについて説明します。特に副作用とその予防策については、副作用が治療継続の可否を左右することがあるため、患者さんの理解度に応じて具体的に説明しています。その後、薬剤管理指導業務を通して継続的にフォローし、他職種との情報交換や副作用に対する処方提案などを行っています。

病棟業務は直接患者さんに関わる業務のため、様々な学びがあります。また自分が提案したことで、患者さんの症状や悩みが和らいでいくのを直接感じることができ、非常にやりがいを感じます。

現在、当院では新病院への建て替えに向け、最新治療の導入、緩和医療の拡大、地域医療連携や社会的支援の強化、県民に対するがんについての積極的な広報活動なども推進し、がん患者さんにとってもっと幅広く利用しやすい病院を目指して準備を進めています。私自身、新病院の発展と日々進歩しているがん領域と共に、成長していきたいと思っています。



兵庫県立病院は総合病院から専門病院まで、様々な経験を通して成長できる環境にあります。

皆さんもぜひ一緒に働きながら成長し続けてみませんか？